

事業報告書

平成30年度

(第15期事業年度)

自：平成30年4月 1日

至：平成31年3月31日

公立大学法人 国際教養大学

1. 法人の基本情報

(1) 法人の概要

① 目的

当法人は、外国語の卓越した運用能力、豊かな教養及びグローバルな知識を身につけた実践力ある人材を養成し、地域社会及び国際社会の発展に貢献するため、大学を設置し、及び管理することを目的としております（定款第1条）。

② 業務内容

当法人は、上記目的を達成するため、以下の業務を行います。

ア 大学を設置し、これを運営すること。

イ 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。

ウ 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者と連携して教育研究活動を行うこと。

エ 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。

オ 法人における教育研究成果の普及及び活用を通じ、地域社会及び国際社会に貢献すること。

カ 上記の業務に附帯する業務を行うこと。

③ 沿革

1998年10月 「秋田県高等教育推進懇談会」設置
(座長：秋田県副知事 板東久美子)

2000年 4月 「国際系大学（学部）検討委員会」設置
(委員長：東京外国語大学長 中嶋嶺雄)

2002年 3月 「国際系大学（仮称）創設準備委員会」設置
(委員長：UMAP 国際事務総長 中嶋嶺雄)

2003年11月 文部科学省から国際教養大学設置認可

2004年 4月 公立大学法人国際教養大学設立認可
開学（初代理事長・学長 中嶋嶺雄：～2013年2月）

[2013年従三位に叙位、瑞宝重光章を受章、秋田県文化功労者表彰を受賞]

2005年 2月 地域環境研究センター（CRESI）設置

2005年 7月 カレッジプラザにサテライトセンター開設（秋田市）

2006年 4月 学部入学定員を100名から130名に増員

2007年 6月 学生宿舎（愛称：グローバルヴィレッジ）竣工

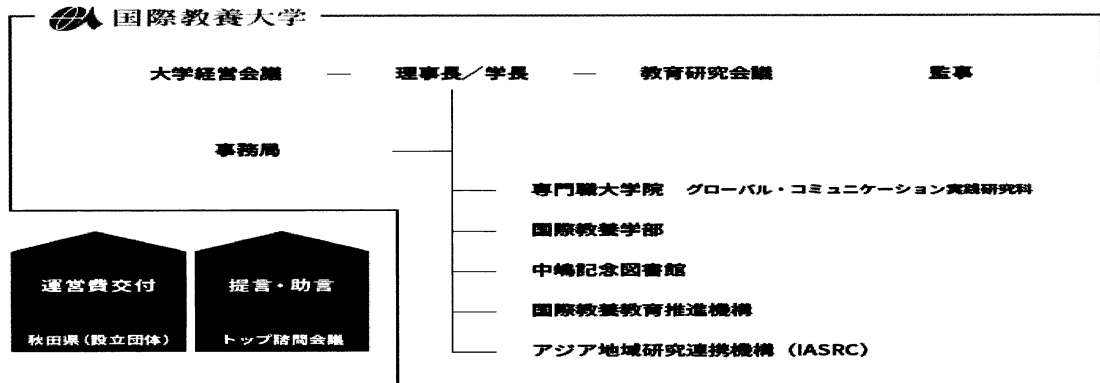
2008年 3月 1期生が卒業、新図書館「国際教養大学図書館」竣工

- 2008年 4月 教職課程設置、言語異文化学習センター (LDIC) 設置
学部入学定員を130名から150名に増員
- 2008年 9月 専門職大学院「グローバル・コミュニケーション実践研究科」設置 (定員30名)
- 2008年12月 講義棟 (D棟) 竣工
- 2010年 3月 多目的ホール竣工
開学5周年記念式典挙行 (多目的ホール)
- 2011年 4月 学部入学定員を150名から175名に増員
- 2011年11月 大学の世界展開力強化事業に採択
- 2012年 1月 東アジア調査研究センター (CEAR) 設置
- 2012年10月 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業 (旧グローバル人材育成推進事業) に採択
- 2013年 3月 学生宿舎 (愛称: さくらヴィレッジ) 竣工
- 2013年 9月 能動的学修支援センター (ALSC) 設置
国際教養教育推進センター (CPILAE) 設置
- 2014年 9月 スーパーグローバル大学創成支援事業 (グローバル化牽引型) に採択
- 2014年11月 開学10周年記念式典挙行
中嶋記念図書館及び Suda Hall (多目的ホール) への改称
- 2015年 4月 アジア地域研究連携機構 (IASRC) 設置 (CRESI と CEAR 統合)
- 2015年 9月 学生イニシアティブセンター (I棟) 竣工
- 2016年 9月 国際教養教育推進機構設置
- 2017年 3月 サテライトセンターを LDIC に統合

④ 設立団体

秋田県

⑤ 組織図 (平成31年3月31日時点)



(2) 事務所（従たる事務所を含む。）の所在地

名称	所在地
管理棟（A棟）	秋田県秋田市雄和椿川字奥椿岱193番地2
ファカルティ棟（E棟）	秋田県秋田市雄和椿川字奥椿岱193番地8
学生会館（F棟）	秋田県秋田市雄和椿川字奥椿岱193番地8
中嶋記念図書館（L棟）	秋田県秋田市雄和椿川字奥椿岱193番地2他

(3) 資本金の額（単位：百万円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
秋田県出資金	1,393			1,393
秋田市出資金	504			504
資本金合計	1,897			1,897

(4) 在学する学生の数（平成30年5月1日時点）

総学生数	923人
学士課程	884人
修士課程	0人
博士課程	0人
専門職学位課程	39人

(5) 役員の状況（平成31年3月31日時点）

職名	氏名	任期	担当	経歴
理事長	鈴木 典比古	自 平成29年 6月 1日 至 令和 3年 5月31日		平成25年6月 現職
常務理事	磯貝 健	自 平成30年 4月 1日 至 令和 元年 5月31日	執行責任者	平成30年4月 現職
理事	ピーター・マツ キャグ	自 平成29年 6月 1日 至 令和 元年 5月31日	人事 教務・教 育組織 入試 学生生活	平成26年9月 現職
理事	給田 英哉	自 平成29年 6月 1日 至 令和 元年 5月31日	人事 財務 広報	平成16年4月 現職

職名	氏名	任期	担当	経歴
理事	佐野 元彦	自 平成29年 6月 1日 至 令和 元年 5月31日	渉外・地 域連携 学生生活	平成20年4月 現職
理事	モンテ・カセム	自 平成29年 6月 1日 至 令和 元年 5月31日	人事 教務・教 育組織 広報	平成26年4月 現職
理事	木村 孟	自 平成29年 6月 1日 至 令和 元年 5月31日	財務 教務・教 育組織	平成27年4月 現職
監事	堀井 照重	自 平成30年 4月 1日 至 令和3年度財務諸表の承 認の日		平成16年4月 現職
監事	山崎 裕子	自 平成30年 4月 1日 至 令和3年度財務諸表の承 認の日		平成21年5月 現職

(6) 常勤職員、出向者の状況

常勤職員は平成30年5月1日において47人(前年比2人増加、4.4%増)となっており、平均年齢は42.04歳です。また、法人への出向者は5人です。

(7) 非常勤職員の数

非常勤職員は平成30年5月1日において2人です。

2. 財務情報

(1) 財務諸表に記載された事項の概要

① 経常収益、経常費用、当期総損益、資産、負債、キャッシュ・フローなどの主要な財務データの経年比較・分析

(経常収益)

平成 30 年度の経常収益は、2,215 百万円と、前年度と比較して 16 百万円増(1%増)となっています。これは、雑益が 33 百万円増(12%増)となったことが主な要因です。

(経常費用)

平成 30 年度の経常費用は、2,149 百万円と、前年度と比較して 31 百万円増(1%増)となっています。これは、一般管理費が 47 百万円増(10%増)となったことが主な要因です。

(当期総利益)

平成 30 年度の当期総利益は、174 百万円となり、前年度と比較して 36 百万円減(17%減)となっています。これは、目的積立金取崩額が 21 百万円減(16%減)となったことが主な要因です。

(資産)

平成 30 年度末現在の資産合計は 6,031 百万円と、前年度と比較して 208 百万円減(3%減)となっています。これは、現金及び預金が 49 百万円増(5%増)となったものの、建物、ソフトウェア等の固定資産が 258 百万円減(5%減)となったことが主な要因です。

(負債)

平成 30 年度末現在の負債合計は 1,313 百万円と、前年度と比較して 9 百万円増(1%増)となっています。これは、長期借入金が 33 百万円減(13%減)、未払金が 49 百万円減(15%減)となったものの、寄附金債務が 101 百万円増(109%増)となったことが主な要因です。

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

平成 30 年度の業務活動によるキャッシュ・フローは 178 百万円の収入となり、前年度と比較して 59 百万円の収入減(25%減)となっています。これは、寄附金収入が 101 百万円増(1,909%増)となったものの、一般管理費などのその他の業務支出が 151 百万円増(40%増)となったことが主な要因です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

平成 30 年度の投資活動によるキャッシュ・フローは 80 百万円の支出となり、前年度と比較して 49 百万円の支出増 (156%増) となっています。これは、固定資産取得による支出が 39 百万円増 (34%増) となったことが主な要因です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

平成 30 年度の財務活動によるキャッシュ・フローは前年度同規模の 49 百万円の支出となっております。これは、設立団体からの長期借入金の返済等であります。

○主要な財務データの経年比較表 (単位：百万円)

区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
経常収益	2, 211	2, 298	2, 259	2, 288	2, 199	2, 215
経常費用	2, 164	2, 284	2, 150	2, 182	2, 118	2, 149
当期総利益	110	109	163	169	210	174
資産	6, 788	6, 812	6, 415	6, 259	6, 239	6, 031
負債	1, 458	1, 420	1, 240	1, 188	1, 304	1, 313
利益剰余金	221	216	320	411	437	444
業務活動CF	119	183	120	97	237	178
投資活動CF	△49	△160	△42	17	△31	△80
財務活動CF	△36	△36	△44	△49	△49	△49
資金期末残高	686	673	707	772	929	978

※計数はそれぞれ四捨五入しているため、合計が一致しないものがあります。

② 行政サービス実施コスト計算書の経年比較

平成 30 年度の行政サービス実施コストは 1,424 百万円と、前年度と比較して 11 百万円増 (1%増) となっています。これは、自己収入等が 28 百万円増 (3%増) となったものの、一般管理費が 47 百万円増 (10%増) となったことが主な要因です。

○行政サービス実施コストの経年比較表 (単位：百万円)

区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
業務費用	1, 199	1, 262	1, 113	1, 114	1, 071	1, 074
(うち損益計算書上の費用)	2, 164	2, 284	2, 150	2, 182	2, 118	2, 149
(うち自己収入)	△965	△1, 022	△1, 038	△1, 068	△1, 047	△1, 075
損益外減価償却相当額	258	261	325	329	340	351

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
損益外減損 損失相当額						
損益外利息 費用相当額						
損益外除売却 差額相当額						0
引当外賞与 増加見積額		0	0	0	0	0
引当外退職給 付増加見積額						
機会費用	32	20		3	2	
行政サービス 実施コスト	1,490	1,543	1,437	1,447	1,413	1,424

※計数はそれぞれ四捨五入しているため、合計が一致しないものがあります。

③ 目的積立金の申請状況及び使用内訳等

当期総利益 174 百万円のうち、中期計画の剰余金の用途において定めた事業に充てるため、172 百万円を目的積立金として申請しました。平成 30 年度においては、教育研究の質の向上及び施設整備の改善に充てるため、84 百万円を使用しました。

(2) 重要な施設等の整備等の状況

① 当事業年度中に完成した主要施設等

- ・ 学生寮・学生会館受変電設備 (取得原価 39 百万円)
- ・ 講義棟 (C 棟) 熱源機器 (取得原価 30 百万円)

② 当事業年度において整備中の主要施設等

- ・ 該当ありません。

③ 当事業年度中に処分した主要施設等

- ・ 該当ありません。

④ 当事業年度において担保に供した施設等

- ・ 該当ありません。

(3) 予算及び決算の概要 (単位：百万円)

区分	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
【収入】						
運営費交付金	1,082	1,082	1,079	1,079	1,059	1,059
学生納付金	619	663	660	699	694	732
受託研究収入			6	6	7	7
受託事業収入	21	19	17	17	12	11
寄附金収入	13	11	32	50	24	19
雑収入	258	270	256	276	265	277
補助金	150	151	189	183	165	167
目的積立金取崩	91	86	113	113	51	59
施設整備費補助金	109	105	204	204	97	3
施設費貸付金						
計	2,341	2,386	2,555	2,626	2,374	2,333
【支出】						
教育経費	379	354	417	400	417	394
研究経費	84	76	81	77	69	67
図書関連経費	52	50	59	58	53	56
受託研究費			6	4	7	5
受託事業費	21	15	17	15	12	9
人件費	1,012	1,000	1,082	1,064	1,124	1,024
一般管理費	492	483	504	494	422	451
専門職大学院経費	163	157	156	154	163	150
図書等資産整備費	9	9	7	6	6	7
施設等資産整備費	130	126	228	227	101	7
計	2,341	2,269	2,555	2,499	2,374	2,171

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
【収入】						
運営費交付金	1,055	1,055	1,068	1,068	1,059	1,059
学生納付金	700	758	684	756	695	743
受託研究収入	2	3	1	7	6	18
受託事業収入	12	11	1	1	0	3
寄附金収入	13	20	19	9	18	110
雑収入	265	272	267	277	295	310
補助金	116	117	110	112	81	83
目的積立金取崩		67		184		167
施設整備費補助金	97	90	67	80	74	70
施設費貸付金						
計	2,260	2,391	2,218	2,495	2,228	2,562
【支出】						
教育経費	351	357	402	352	383	339
研究経費	71	68	46	41	54	50
図書関連経費	54	56	57	63	61	60
受託研究費	2	2	1	6	6	13
受託事業費	12	8	1	1	0	2
人件費	1,138	1,050	1,097	1,002	1,084	1,019
一般管理費	443	518	437	652	407	602
専門職大学院経費	156	144	149	145	151	130
図書等資産整備費	5	5	5	6	4	5
施設等資産整備費	28	28	24	15	78	70
計	2,260	2,236	2,218	2,282	2,228	2,289

※計数はそれぞれ四捨五入しているため、合計が一致しないものがあります。

3. 事業に関する説明

(1) 財源の内訳

当法人の経常収益は2,215百万円で、その内訳は、運営費交付金収益1,048百万円（収益の47%）、補助金等収益64百万円（収益の3%）、授業料収益等の自己収入1,075百万円（収益の49%）等となります。

また、施設整備事業（さくらヴィレッジ）に必要な費用に充てるため、長期借入金をしています（平成24年度に192百万円及び264百万円借入、期末残高110百万円及び151百万円）。

(2) 財務情報及び業務の実績に基づく説明

「すべての授業を英語で実施」「1年間の海外留学の義務付け」「留学生と暮らす寮生活」など、極めて先進的な教育システムを他大学に先駆けて採用した本学は、平成16年4月の開学以来、英語をはじめとする外国語の卓越したコミュニケーション能力と豊かな教養、グローバルな視野を伴った専門知識を身に付けた実践力のある人材の育成に取り組んでいます。

開学から15年目を迎えてもなお高い出願倍率、100%の就職内定率を維持し続け、世界各国・地域から数多くの留学生が本学において学修するといった事実はもとより、様々なランキングにおいて本学の真の実力と存在価値を示しています。とりわけ、「Times Higher Education 世界大学ランキング 2019 日本版」では、国内総合10位（公立大学では1位）、教育充実度・国際性1位という結果を得ることとなり、「世界標準の国際教養教育」の発信に今後益々まい進するところです。

こうした中、全国的には本学の特色と類似する大学が増加する状況にありますが、本学としては、国際教養という教学理念のもと、中期計画及び年度計画に基づき着実に事業を実施しているところです。平成30年度の活動実績は次のとおりです。

① 教育研究について

i) 教育の充実

平成29年度に設立したカリキュラム改革小委員会を中心に、教育課程、教育方法などについて検証・見直しを着実に進め、新カリキュラム骨子案を固めました。また、理系科目やファイナンス関連科目の新規開講、海外招聘講師による特別授業の開講など、国際教養教育に係る科目の充実に取り組みました。

留学生に対する教育の取組として、引き続き日本研究科目及び東アジア関係科目を拡充したほか、秋田県内の伝統行事に関する情報を周知し、学生が地域から直接的に日本及び秋田について学ぶことができる機会を提供しました。また、2つのパートナーズプログラムを継続実施し、さらに次年度以降の新たなプログラムの開講について提携校と協議を行いました。

専門職大学院においては、全領域で前年度から引き続き実習を重視した実践的な教育を実施し、特に日本語教育実践領域では海外教育実習が教育実習プログラムの運営体制を含めて評価され、国際交流基金が次年度実施する大学連携日本語パートナーズ派遣プログラムに採択されました。また、専門職大学院認証評価において課題と指摘された、発信力実践領域で養成する職能分野について、大学院運営委員会及びファカルティ・ディベロップメント（FD）において、必修科目や実習の在り方を検討しました。

ii) 多様な学生の確保

全国6都市で行った大学説明会には765名が参加し、平成31年度4月入学者を対象とした一般選抜試験の出願倍率は昨年度より更に高まり13.9倍となりました。加えて、県内外の高校生を対象とした、課題解決型学修体験「グローバル・ワークショップ」は定員16名に対し98名からの応募があったほか、従来の県内教員向けキャンパス見学会を県外教員向けにも実施し、20名の教員が参加しました。また、全国での入試改革に先駆け、2020年度入学者を対象とした入試制度改革として、入試形態ごとの定員や配点の変更、グローバル・ワークショップ入試の新設、帰国生入試の廃止等の入試制度の変更を決定しました。

県内の学生募集活動においては、新たに秋田駅東西連絡自由通路の広告スペースを活用し、受験者層をターゲットとしたメッセージ性のある広告やオープンキャンパスの案内等を掲出することで、県内での認知度向上と潜在的な志願者の増加を図ったほか、上述の入試制度改革の一環として、2020年入学者向けの入試制度より、グローバル・セミナー入試の定員を10名から15名に拡大することとしました。また、4月に県内すべての高校を、10月に本学への出願実績のある高校を重点的に訪問し、本学の情報を提供し、志願者数の増加を図りました。

専門職大学院においては、パンフレットに加え、新たにPRポスターを作成し、本学研究科と関連した学部・学問領域を持つ大学20校へ配布したほか、大学院説明会や学内外のイベントの際にも掲示し、認知度向上を図りました。これらの前年度からの継続した取組、平成30年度からの新たな取組により、平成30年度は4月及び9月入学を合わせ、定員30名に対し34名が入学しました。

留学生の確保及び本学学生の留学先拡大の取組として、新たに6大学との学術交流協定の締結を実現しました。これにより、平成31年3月時点で提携大学は50カ国・地域、195大学（北米60校、ヨーロッパ75校、アジア41校、オセアニア13校、アフリカ3校、南米3校）となりました。また、交換留学及びパートナーズプログラム案内パンフレットの更新をしたほか、本学への留学を検討している海外学生向けに、県内の地域交流活動に密着した広報動画を制作・公開し、広報をより強化しました。

iii) 学生支援

(学修の支援)

入学前教育として、特別選抜試験合格者に対して従前から行っているスタートナウセミナー、グローバル・セミナー入試で合格した県内高校生に対して英語の学習法を中心としたプログラムを引き続き実施し、入学前段階での学修支援を行いました。

言語異文化学修センター(LD I C)の開館時間を平日は午前9時から午前2時までに延長し、より長時間にわたり快適な学修環境を学生へ提供しました。アカデミック・キャリア支援センター(A C S C)では、高度専門職業人講演や大学院に進学した卒業生による体験発表会、本学教員による大学院相談会などを実施したほか、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院、国連大学大学院、リーズ大学、ドイツ学術交流会による合同進学説明会を開催しました。

(学生生活の支援)

教職員、看護師、カウンセラーなどの密接な連携のもと、学生の心身面の問題の早期発見に努めるとともに、きめ細かなケアを行いました。特にハラスメント対策として、日英のパンフレット作成、新入生オリエンテーションでの相談員の紹介、学内トイレでのハラスメント防止に関するポスターの掲示などにより、ハラスメント防止に対する学内意識向上を図りました。

経済的に困難な学生に対する支援として、外部団体による奨学金を申し込む際の応募書類の書き方講習会を行ったほか、奨学金を得る機会の均等・公平性を保つため、既存の本学の給付奨学金の統廃合を行い、「A I U正規学生長期支援奨学金」を創設したことで、従来の経済支援制度に僅差で適用されなかった学生を支援する体制を整えました。

また、学生満足度調査を元に、路線バスの運行ルートについて秋田中央交通と協議を重ね、大学一和田線の廃止、大学一秋田空港線の新設、及び大学一四ツ小屋駅の延伸を決定し、次年度から施行することとなりました。

(キャリア支援)

キャリアデザイン科目(授業)の提供、インターンシップ(就業体験)、留学前キャリアガイダンス、企業を招いての就職説明会開催等のきめ細かな進路選択支援を継続実施したほか、最新の社会情勢の変化を踏まえ、新興業界に関する説明会を積極的に開催しました。従来実施してきた取組及び新規の取組により、平成30年度卒業生の就職率は前年度に引き続き100%を維持しました。

iv) 研究の充実

前年度から引き続き、科学研究費助成事業への申請に関する説明会を実施しました。また、スーパーグローバル大学創成支援事業において、A S E A N 3カ国の大学との協働P

BLを4科目開講、提携校を含む海外大学等から4カ国5名の教員を招聘し、短期集中授業を提供したほか、計4名の本学教員を海外大学に派遣し、学术交流を図りました。

また、日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（実社会対応プログラム）」に本学アジア地域研究連携機構（IASRC）の研究テーマ「人口減少社会における包摂と継承―「最先端」秋田からの提言」が採択され、プロジェクトの一環として外国人留学生を含む4名が男鹿のなまはげ行事に参加したことにより、研究の推進と共に学生に地域教育の機会を提供することができました。

② 地域貢献について

i) 学校教育への支援

本学が連携協定を締結している市町村を中心に、留学生を含む本学の学生を保育園・幼稚園や小・中学校及び高等学校へ派遣したほか、各学校の生徒を受け入れることにより、計223回にわたり交流を行い、教育現場における英語教育の実践や異文化理解を促進しました。

また、英語で英語を学ぶプログラム「イングリッシュビレッジ」を12回実施したほか、民間事業者が主催する小学生が英語に親しむための英語キャンプに教員1名、学生100名（うち留学生30名）を派遣し、イングリッシュビレッジのノウハウを活かし、小学生が英語に親しむための体験学習プログラムの実施に協力しました。また、英語教員を対象とした「ティーチャーズセミナー」や、在札幌米国総領事館や米国大使館との共催による英語教授法に係る研修会を実施するなど、英語担当教員の指導力の向上を図る取組を支援しました。

ii) 国際化の推進

平成30年度は、新たに羽後町と連携協定を結び、8協定締結市町村（八峰町、大仙市、男鹿市、由利本荘市、美郷町、仙北市、大潟村、羽後町）と111回交流事業を実施しました。

IASRCでは、グローバルな視点を備えた企業・企業人材を育成するプログラム「Project GloAkitabai」を主催し、東南アジアビジネスの専門家による国内研修及び海外渡航研修に加え、語学講座を実施し、延べ158名が参加しました。

③ 業務運営について

組織運営においては、学内組織の各役割を明確にした上で、大学経営会議を中心とした運営体制により事業を推進しました。トップ諮問会議は会議開催方式から個別訪問方式に開催方法の見直しを行い、より効率的な運営を図りました。

平成29年度の業務実績に係る評価において一層の努力が必要とされた県内出身入学者数について学内で改善方策を協議し、上述のとおり入試改革に反映させる等の対応を行

いました。

人事管理においては、平成 29 年度に海外大学を訪問して得た情報を基に、スーパーバイザー教員のミーティング、FD等を通じて教員の意見を汲み取り、教員評価制度を規定する"Faculty Personnel Policies"を改正しました。また、FDを計 8 回実施したほか、職員向けに初めてオンライン教育を実施し、9 割以上の職員が修了しました。

④ 決算について

i) 経営状況

(経営成績)

平成 30 年度の経営成績は、経常収益合計 22 億 1,489 万円、経常費用合計 21 億 4,945 万円で、当期純利益は 6,544 万円でしたが、目的積立金から 1 億 826 万円を取崩し、当期総利益は 1 億 7,370 万円となりました。

収入については、受験者数や入学手続者数が見込みを上回ったことによる学生納付金収入の増、教育研究環境整備のための積立金繰入収入の増、寄附金収入の増などにより、当初予算に比べ 3 億 3,312 万円の増となっています。

支出については、業務改善や経費節減に努めたほか、教職員の流動実績に伴い人件費が減となったものの、積立金を活用した施設設備の改善等を積極的に行ったことなどにより、当初予算に比べ 6,063 万円の増となっています。

(財政状態)

平成 30 年度の財政状態は、資産総額が 60 億 3,084 万円で、負債総額が 13 億 1,305 万円、純資産総額が 47 億 1,779 万円となっています。

資産の内訳は、固定資産が 50 億 2,235 万円、流動資産 10 億 849 万円であり、負債の内訳は、県からの長期借入金などの固定負債が 6 億 5,229 万円、未払金、預り金などの流動負債が 6 億 6,076 万円です。純資産は、資本金が県から出資された建物 13 億 9,326 万円、秋田市から出資された土地 5 億 384 万円となっており、資本剰余金が県からの補助金により取得した土地 4 億 6,219 万円、建物等 49 億 9,609 万円などです。

ii) 利益の処分

当期総利益は、学生の確保、経費削減等の経営努力の結果であり、その剰余金については、専門職大学院に係るものは、地方独立行政法人法第 40 条第 1 項に基づく積立金として、その他のものは、同法同条第 3 項に基づき中期計画で定める教育研究の質の向上、組織運営及び施設設備の改善を図るための経費に充てることを目的とした積立金として、より充実した大学運営に資することとします。